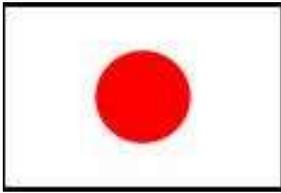


日本 インドネシア国交樹立 60 周年記念事業



日本 ⇔ インドネシア ティーンエイジ アンバサダー 2017 インドネシアプログラム 実施報告書



日本



インドネシアへ

AEON 1%
Club Foundation

日本⇄インドネシア 高校生国際交流事業 インドネシアプログラム

I. 交流期間：3月12日（月）～3月19日（月）

II. 主な参加者：日本高校生 埼玉県筑波大学附属坂戸高等学校 16名
インドネシア高校生 SENIOR HIGH SCHOOL OF BOGOR, UMMUL QURO 16名
駐インドネシア共和国特命全権大使 石井 正文氏
前駐日インドネシア共和国特命全権大使 ユスロン・イサ・マヘンドラ氏
インドネシア共和国教育文化省国際協力企画局局长 ディディック・スノレディ氏
インドネシア共和国教育文化省中等教育部長 プルワディ・スタント氏
ジェトロ ジャカルタ事務所所長 春日原 大樹氏

III. 訪問場所：インドネシア共和国（ジャカルタ、ボゴール）

IV. 事業の目的

次代を担う日本と海外の高校生が相互交流を通じ、互いの国の文化や価値観の多様性を学習・体験。

V. 交流プログラム内容：

① 表敬活動

インドネシア共和国教育文化省訪問 3/13（火）ジャカルタ
在インドネシア日本国大使公邸にて歓迎会 3/13（火）ジャカルタ

② 歴史・文化理解活動

ジェトロ インドネシア経済状況レクチャー 3/13（火）ジャカルタ
イオンモール ジャカルタ ガーデンシティー視察 3/14（水）ジャカルタ
インドネシア伝統舞踊体験 3/14（水）ジャカルタ
パティックろうけつ染め体験 3/15（木）ボゴール
ボゴール農科大学ディスカッションプログラム 3/15（木）ボゴール

③ 交流活動

ボゴール ウムル クロ高等学校訪問・授業体験 3/16（金）ボゴール
ホームステイ（2泊） 3/16（金）-18（日）ボゴール・ジャカルタ
フェアウェルパーティー 3/18（日）ジャカルタ

VI. 今回のプログラムの特徴：日本プログラムにて農場視察および、消費者の観点からみた食と持続可能な社会との関係について学習（イオン埼玉羽生農場・女子栄養大学）。インドネシアプログラムでは、ボゴール農科大学にてインドネシアの農業における作物の病害について受講し、グループディスカッション、発表を通して理解を深めた。

VII.活動の様子：

【1】【表敬活動】

◆ インドネシア共和国教育文化省表敬訪問 3月13日（ジャカルタ）



↑表敬の挨拶と今後の活動についてスピーチする日本高校生

（日本高校生のスピーチより抜粋）

私達はインドネシアの文化や習慣の違いを実際に現地で体験し、日本の文化と似ている所も発見したいと思っています。高校生だからこそ活かせる発想力や行動力でインドネシアを訪問した事が無駄にならないように精一杯活動していきます。また日本の代表として訪問していることを忘れず自覚を持った行動をしていきたいです。

（スピーチより抜粋）

両国の高校生の皆さん、今回の交流を通じてお互いの文化についてできるだけ多くの事を吸収して下さい。そして将来インドネシア、日本それぞれの国のスペシャリストとして活躍されることを期待しています。



↑スピーチをするディディック スハルディ局長



↑スハルディ局長へ
羽子板を贈呈する日本高校生



↑スハルディ局長へ記念品を贈呈する
インドネシア高校生



↑スハルディ局長を囲んで記念撮影



◆ 在インドネシア日本国大使公邸にて歓迎会 3月13日（ジャカルタ）

（石井大使のスピーチより抜粋）

今年には日本インドネシア国交樹立 60 周年記念であり、「共に働き共に前進する」をキーメッセージとして掲げています。私の横にある 60 周年記念のロゴは、インドネシアの 17 歳の高校生によってデザインされました。この機会を通して日本とインドネシア両国について多くを学び、友人をたくさん作って下さい。そして 70 周年、80 周年を迎える時に日本・インドネシア関係に携わって頂けたらと思います。



↑駐インドネシア共和国特命全権大使よりご挨拶

（ユスロン イサ マヘンドラ前駐日インドネシア共和国特命全権大使のスピーチより抜粋）

「若者は社会の波である」ということわざがあります。皆さんも日本とインドネシアを繋ぐ良い波になって両国の友好関係を更に強くして欲しいと思います。



↑前駐日インドネシア大使よりご挨拶



↑石井大使に記念品を贈呈するインドネシア高校生



↑在インドネシア日本大使館 久保専門調査員と交流する日本高校生



↑在インドネシア日本大使館 本清公使と交流する日本高校生、2012年インドネシアTAのOB



↑今回のティーンエイジアンバサダー（TA）と交流する2015年インドネシアTAのOBと、2012年インドネシアTAのOB



↑そろばんで数字6桁の計算を披露する日本高校生



↑竹でできた伝統楽器アングレンを演奏するインドネシア高校生



↑インドネシア高校生代表スピーチ

(スピーチより抜粋)

ティーンエイジ アンバサダーとして日本とインドネシア
両国の友好関係を保っていくだけでなく、今回のプログラム
を通してできるだけ多くの事を経験したいと思います。
そしてインドネシアの文化を皆さんに紹介し、海外にも
積極的に発信していける様にしたいです。



↑大使館にて歓迎会の記念撮影

(前から2列目、左から) 筑波大学附属坂戸高等学校 吉岡 静 教諭、在インドネシア日本国大使館 本清 耕造 公使、
イオンアジア インドネシア 京楽 康士 代表取締役社長、イオンインドネシア 磯部 大将 代表取締役社長、ユスロン イサ マハンドラ 前駐日インドネシア大使、
(公財) イオンワンパーセントクラブ 理事長 横尾 博、在インドネシア日本国大使館 特命全権大使 石井 正文 閣下、
イオンアジア 若山 昇 取締役 COO、イオンインドネシア 菓子 豊文 代表取締役社長、ボゴール ウムル クロ高等学校 アリ アリアンシア 校長、
筑波大学附属坂戸高等学校 建元 喜寿 教諭、ボゴール ウムル クロ高等学校 ヒルダ ラフィカ ワティ 教諭、
在インドネシア日本国大使館 中村 亮 公使 (前から3列目、右)

【2】【歴史・文化理解活動】

◆ ジェトロ インドネシア経済状況レクチャー 3月13日 (ジャカルタ)



↑インドネシアの地理、人口や社会問題について
講義を受ける日本高校生



↑ジェトロ 春日原所長へ記念品を贈呈する日本高校生

◆ イオンモール ジャカルタ ガーデンシティー視察 3月13日 (ジャカルタ)



↑内藤マネージャーへ質問をする日本高校生



↑エディー店長へ質問をする日本高校生

◆ インドネシア伝統舞踊体験 3月14日 (ジャカルタ)



↑インドネシア西ジャワ州スダ民族の
伝統舞踊「カウリン」を体験する日本高校生



↑ポーズをとり記念撮影する日本高校生

◆ バティックろうけつ染め体験 3月15日 (ボゴール)



↑布に模様を描く両国高校生



↑完成したバティックをみせる両国高校生

◆ ボゴール農科大学ディスカッションプログラム 3月15日 (ボゴール)



↑チームに分かれインドネシアの農業における作物の病害についてディスカッションをする両国高校生



↑発表する日本高校生



↑発表するインドネシア高校生

【3】【交流活動】

◆ 学校訪問・授業体験 3月16日（ボゴール）



↑校庭にてボゴール ウムル クロ高校生に迎え入れられる日本高校生



↑スピーチをする日本高校生

（スピーチより抜粋）

インドネシアの文化について皆さんからたくさんの事を教わりたいと思います。まずコーヒーが好きなので、どんな美味しいコーヒーがあるのか知りたいです。また、インドネシア語も勉強したいです。そしてインドネシアの人たちはなぜ皆こんなに優しいのか教えて欲しいです。



↑アーチェリーを披露するインドネシア高校生



↑アリ アリアンシア校長先生へ記念品を贈呈する日本高校生



↑授業体験で英語で自己紹介をする日本高校生



↑音楽の授業で竹でできたインドネシア伝統楽器アングレンを演奏する両国日本高校生

↑インドネシア伝統舞踊サマンドスを教わる日本高校生



↑筑波大学附属坂戸高等学校の紹介をする日本高校生

◆ ホームステイ 3月16日ー18日 (ボゴール・ジャカルタ)



↑ホストファミリーと食卓を囲む日本高校生



↑ホストファミリーと記念撮影する日本高校生



↑ホストファミリーにお土産を選んでもらう日本高校生



↑ホストファミリーと食事をする日本高校生

ボゴール ウムル クロ高校 ホストファミリーのコメント (アンケートより抜粋)

ホームステイの準備に特に問題はありませんでした。日本の高校生を自宅に招くことができとても良い経験になりました。今後過去のティーンエイジ アンバサダー参加者を含め、継続的に集まる事ができればと思います。

インドネシアは辛い料理が多いので、ホームステイ前には食事の準備に時間をかけました。

週末は子どもたちと両国の文化についてたくさん話すことができ、日本の高校生をホームステイに迎えられて良かったと思います。

我が家に息子がもう一人増えたみたいでとても良い経験になりました。

短いホームステイでしたが、お互いの理解を深める良い機会になったと思います。

最初は日本の高校生を上手くホームステイに迎え入れることができるか心配でしたが、息子のペアはすぐに打ち解けてくれました。日本とインドネシアの文化について話すことが出来る良い機会でした。

◆ フェアウェルパーティー 3月18日 (ジャカルタ)



↑イオンインドネシア 菓子社長より挨拶

(菓子社長のスピーチより抜粋)

インドネシアでの一週間の滞在で色々な事を経験されたのではないかと思います。その経験と感じた事を大切にしてください。大事なことは、実際に自分の目で見て感じるという事です。将来自分の過去を振り返った時、きっと何かの役に立っているはずですよ。



↑イオンモールインドネシア 磯部社長より乾杯挨拶

(磯部社長のスピーチより抜粋)

日本 インドネシア両国での交流を終え、お互いの親交を更に深めることができたら大変嬉しいと思っています。また、異国の生活を体験し、今回のプログラム参加を通じて、友人ネットワークを拡げ、今後の人生をより実り多いものとされることを心より願っております。



↑イオンインドネシア菓子社長と記念撮影する日本高校生



↑インドネシアのイオン スカラシップ生と交流する日本高校生

(ススウォノ理事長のスピーチより抜粋)

両国の高校生の皆さんには、是非将来のリーダーになってほしいと思います。そして日本 インドネシアの友好関係を更に強くしていくことを期待しています。今回の交流を通じてお互いの良いところを学び、有効活用して行って下さい。



↑ススウォノ ウムレ クロ財団 理事長よりご挨拶



↑2002年インドネシアティーンエイジ アンバサダーOBによるスピーチ

(スピーチより抜粋)

現在は社会貢献の組織を立ち上げ、ジャカルタで働いています。2002年にこのプログラムに参加して以来、ティーンエイジ アンバサダーの同窓会を通して他の国々の人たちと知り合うことができました。これはティーンエイジ アンバサダーが継続して実施されてきたからこそできることだと思います。近い将来にまた同窓会が開催されることを期待しています。



↑2012年インドネシアティーンエイジ アンバサダーOBOGによるスピーチ

(スピーチより抜粋 写真左)

現在は会社の通訳として働いています。2012年にプログラムに参加した時には日本の文化について多くを学びました。

(スピーチより抜粋 写真右)

現在は大学で情報処理の勉強をしています。今はSNSなどインターネットを使ってお互いの連絡が取りやすくなっているので、プログラムが終わってもペアと連絡を取り続けてほしいと思います。



↑2015年インドネシアティーンエイジ アンバサダーOBによるスピーチ

(スピーチより抜粋)

2015年のプログラムに参加し、現在はインドネシア大学の法学部の学生です。当時のペアとは今も連絡を取っていて、お互い情報交換をしています。ペアとの友情を大事にして下さい。今後皆さんが海外に出て活躍されると思いますが、その時には今回のペアとの出会いが役に立つと思います。



↑日本高校生代表スピーチ

(スピーチより抜粋)

このプログラムへ参加し、ウムル クロ高校の皆さんにとっても親切にして頂き、充実した一週間になりました。日本とインドネシア両国でペアと経験したことは忘れません。日本 インドネシア ティーンエイジ アンバサダーは今日で終わりますが、これからもインターネットを通して連絡を取り合いましょう。短い間でしたが、また会えることを楽しみにしています。



↑イオンクレジットサービスインドネシア 石田社長（写真左）、イオンファンタジーインドネシア 京楽社長（写真左から3番目）より
日本 インドネシア ティーンエイジ アンバサダーの参加証明書を受け取る両国高校生代表



↑“We are the world”にのせた活動のハイライトを観る両国高校生、ホストファミリー、OB、OG



↑フェアウェルパーティー参加者全員での記念撮影

（両国高校生、ホストファミリー、2002年、2012年、2015年ティーンエイジアンバサダーOB、OG、インドネシアのイオンスカラシップ生）

VIII.参加者の感想：(スピーチ、アンケートより抜粋)

ホームステイを通して、インドネシア人の優しさやイスラム教について肌で感じる事ができたと思います。ホストファミリーは8人家族で賑やかでした。ホームステイ中になかなか行くことのできないモスクに連れて行ってくれ、お祈りをしているところを見ることができて貴重な経験になりました。

日本 女子高校生

首都でも貧富の差が顕著であったり、目の前で電線が切れたり、更には小さい子どもがバイクに乗っていたりと、都市にも様々な問題があることを学びました。また、文化についても言語の多様性など、実際に体験しなければわからないことがありました。そしてインドネシア人の人の良さを知る良い機会でした。

日本 男子高校生

海外の高校生と文化や伝統の交流するとても良い機会だったと思います。今回の日本とインドネシアでのプログラムを通じて、自国についてももっと学ぶことがたくさんあるのではと感じました。体験することで理解が深められることを学ぶことができたと思います。

インドネシア 女子高校生

インドネシアでは、ペアに多くの事を紹介しましたが、一週間ではとても足りないくらいでした。また、ペアが私の両親や兄弟とも仲良くなれて良かったです。ティーンエイジ アンバサダーの同窓会が開催されることを楽しみにしています。

インドネシア 男子高校生

先生



吉岡 静 先生

ジャカルタとボゴール 2つの地域を訪問することで、現地での生活や文化を深く体験できたと思います。伝統文化体験も含め、異文化理解のためには実際に経験することが大事だと思います。また、ウムル クロ高校と交流することでムスリムについての考えも深まりました。



建元 喜寿 先生

高校生同士のこのような相互交流は、5年後、10年後、20年後に様々な効果が表れるのではないかと思います。帰国後の生徒がどの様に成長していくか楽しみにしています。今後も今ウムル クロ高校との交流を継続していきたいです。また、スーパーグローバルハイスクールとの親和性が高いと感じました。